

令和6年度
看護師特定行為研修
募 集 要 項

徳島大学病院



目次

I 看護師特定行為研修の概要	2
1. 特定行為研修の目的・目標	2
2. 教育目標	2
3. 本院における特定行為研修の特色	2
4. 受講対象者	2
5. 開講する特定行為研修（領域別パッケージ、コース、区分）と定員	3
6. 科目名と時間数及び受講料	7
7. 研修期間及びスケジュール	10
8. 研修内容等	11
9. 受講モデル	11
10. 修了要件	11
II 応募方法	12
1. 出願手続き	12
2. 受講審査料	12
3. 選考方法	13
4. 合否並びに受講手続き等	13

I 看護師特定行為研修の概要

1. 特定行為研修の目的・目標

本研修の目的は、地域医療及び高度医療の現場において、医療安全を配慮しつつ、特定行為に必要な専門的な知識及び技術を教育し社会に貢献できる有能な看護師を育成します。

2. 教育目標

- ・多様な臨床場面において重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントする基本的な能力を身につける。
- ・多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くための基本的な能力を身につける。
- ・多様な臨床場面において患者の安心に配慮しつつ、必要な特定行為を安全に実践する能力を身につける。
- ・問題解決に向けて多職種と効果的に協働する能力を身につける。
- ・自らの看護実践を見直しつつ標準化する能力を身につける。
- ・多様な臨床現場において当該特定行為を行うための知識、技術及び態度の基礎を身につける。
- ・多様な臨床現場において、医師からの手順書による指示を受け、実施の可否の判断、実施及び報告の一連の流れを適切に行うための基礎的な実践能力を身につける。

3. 本院における特定行為研修の特色

各学会認定の指導医・専門医資格を有する医師と特定看護師・専門看護師・認定看護師による演習、実習を行います。また、教材は、eラーニングを主体としているため、受講生が勤務と両立しながら、各自の進度に合わせて繰り返し受講することができます。演習・実習は、本学医学部のシミュレーター等を利用し、実践的かつ高度な技術が身につく研修を行います。

4. 受講対象者

受講者の要件は、下記のとおりです。

- (1) 日本国内における看護師免許を有していること。
- (2) 看護師免許取得後、通算5年以上の実務経験を有している者
- (3) 原則として、所属施設において特定行為の実践・協力が得られ、所属長の推薦書を添付できること。
- (4) 今後、特定行為を通じて、医療の発展と社会貢献に寄与する意欲があること。
- (5) 徳島大学病院職員または日本国内の医療機関に勤務している者。

なお、区分別科目の臨床実習は、自施設が協力施設となり実施することが前提となります。

5. 開講する特定行為研修（領域別パッケージ、コース、区分）と定員

徳島大学病院では、領域別パッケージ研修、コース研修、区分研修が可能です。研修は複数を選択することができます。募集定員等については、次のとおりとします。

- ・受講者は全部で10名までとします。
- ・領域別パッケージ研修・コース研修を選択する受講者、新規受講者を優先とします。

(1) 領域別パッケージ研修（表1）定員 各3名

領域別パッケージ研修は、厚生労働省令で認められたパッケージ研修で、特定行為研修の一部が免除となるものです。徳島大学病院では次の3領域の研修が可能です。

- ① 術中麻酔管理領域
- ② 救急領域
- ③ 外科系基本領域

(2) コース研修（表2）定員 各3名

コース研修は、厚生労働省令で定められた特定行為区分を徳島大学病院で組み合わせた研修です。次の2コースの研修が可能です。

- ① 創傷管理コース
- ② 血糖管理コース

(3) 区分研修（表3）定員 各3名

区分研修は、厚生労働省令で定められた特定行為区分毎に行う研修です。徳島大学病院では次の15の区分研修が可能です。

- ① 呼吸器（気道確保に係るもの）関連
- ② 呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連
- ③ 呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連
- ④ 胸腔ドレーン管理関連
- ⑤ 腹腔ドレーン管理関連
- ⑥ 栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連
- ⑦ 栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈用カテーテル管理）関連
- ⑧ 創傷管理関連
- ⑨ 創部ドレーン管理関連
- ⑩ 動脈血液ガス分析関連
- ⑪ 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ⑫ 感染に係る薬剤投与関連
- ⑬ 血糖コントロールに係る薬物投与関連
- ⑭ 術後疼痛管理関連
- ⑮ 循環動態に係る薬剤投与関連

<組み合わせ例>

- 例 1) 外科系基本領域パッケージ研修を選択
 + 区分研修 ④胸腔ドレーン管理関連+⑤腹腔ドレーン管理関連 など
- 例 2) 創傷管理コース研修を選択
 + 区分研修 ③呼吸器 (長期呼吸療法) など
- 例 3) 術中麻酔管理領域パッケージ研修を選択
- 例 4) 血糖管理コースを選択
- 例 5) 区分研修を複数区分選択

表 1 領域別パッケージ研修

①	術中麻酔管理領域 6 区分 (8 行為)	
	特定行為区分	特定行為
	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	・侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・人工呼吸器からの離脱
	動脈血液ガス分析関連	・直接動脈穿刺法による採血 ・橈骨動脈ラインの確保
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	・脱水症状に対する輸液による補正
	術後疼痛管理関連	・硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
	循環動態に係る薬剤投与関連	・持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整
②	救急領域 5 区分 (9 行為)	
	特定行為区分	特定行為
	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整
	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	・侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・非侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 ・人工呼吸器からの離脱
	動脈血液ガス分析関連	・直接動脈穿刺法による採血 ・橈骨動脈ラインの確保
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	・脱水症状に対する輸液による補正
	精神及び神経症状にかかわる薬剤投与関連	・抗けいれん剤の臨時的投与

③	外科系基本領域 7区分（7行為）	
	特定行為区分	特定行為
	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	・中心静脈カテーテルの抜去
	創傷管理関連	・褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去
	創部ドレーン管理関連	・創部ドレーンの抜去
	動脈血液ガス分析関連	・直接動脈穿刺法による採血
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	・脱水症状に対する輸液による補正
	感染に係る薬剤投与関連	・感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
	術後疼痛管理関連	・硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整

表2 コース研修

①	創傷管理コース 3区分（5行為）	
	特定行為区分	特定行為
	創傷管理関連	・褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 ・創傷に対する陰圧閉鎖療法
	創部ドレーン管理関連	・創部ドレーンの抜去
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 ・脱水症状に対する輸液による補正
②	血糖管理コース 2区分（3行為）	
	特定行為区分	特定行為
	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	・持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 ・脱水症状に対する輸液による補正
	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	・インスリンの投与量の調整

表3 区分研修 15区分

	特定行為区分名	特定行為
①	呼吸器（気道確保に係るもの）関連	・経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整

②	呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・ 非侵襲的陽圧換気の設定の変更 ・ 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整 ・ 人工呼吸器からの離脱
③	呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気管カニューレの交換
④	胸腔ドレーン管理関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 低圧胸腔内持続吸引器の吸引圧の設定及びその変更 ・ 胸腔ドレーンの抜去
⑤	腹腔ドレーン管理関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腹腔ドレーンの抜去（腹腔内に留置された穿刺針の抜針を含む）
⑥	栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中心静脈カテーテルの抜去
⑦	栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈用カテーテル管理）関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 末梢留置型中心静脈注射用カテーテルの挿入
⑧	創傷管理関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去 ・ 創傷に対する陰圧閉鎖療法
⑨	創部ドレーン管理関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創部ドレーンの抜去
⑩	動脈血液ガス分析関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直接動脈穿刺法による採血 ・ 橈骨動脈ラインの確保
⑪	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整 ・ 脱水症状に対する輸液の調整
⑫	感染に係る薬剤投与関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
⑬	血糖コントロールに係る薬物投与関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ インスリンの投与量の調整
⑭	術後疼痛管理関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整
⑮	循環動態に係る薬剤投与関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整 ・ 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整 ・ 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整 ・ 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整 ・ 持続点滴中の利尿剤の投与量の調整

6. 科目名と時間数及び受講料

共通科目及び区分別科目の時間数並びに受講料は、次のとおりです。区分別科目で研修する特定行為については本要項4ページ～6ページを確認ください。

(1) 共通科目

科目名	時間数					金額 (消費税を含む)
	講義	演習	実習	評価	合計	
臨床病態生理学	29	1		1	31	424,600 円
臨床推論	26.5	16	1	1.5	45	
フィジカルアセスメント	17.5	2	17.5	8	45	
臨床薬理学	32.5	11.5		1	45	
疾病・臨床病態概論	37	3		1	41	
医療安全学/特定行為実践	23.5	17	3.5	2	46	
合計	166	50.5	22	14.5	253	

(2) 区分別科目

1) 領域別パッケージ研修

①術中麻酔管理領域 ※研修する特定行為はP.4表1 領域別パッケージ研修①参照

科目名	時間数					金額 (消費税を含む)
	講義	演習	実習	評価	合計	
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	8		5 症例	1	9+5 症例	183,700 円
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	12.5	3	10 症例	1.5	17+10 症例	
動脈血液ガス分析関連	11.5	—	10 症例	1.5	13+10 症例	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	9	1	5 症例	1	11+5 症例	
術後疼痛管理関連	5.5	1.5	5 症例	1	8+5 症例	
循環動態に係る薬剤投与関連	8.5	2	5 症例	1.5	12+5 症例	

※術中麻酔管理パッケージは徳島大学病院手術部での特定行為実践状況を見学できます。

②救急領域 ※研修する特定行為はP.4表1 領域別パッケージ研修②参照

科目名	時間数					金額 (消費税を含む)
	講義	演習	実習	評価	合計	
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	8	—	5 症例	1	9+5 症例	202,400 円
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	20.5	6	20 症例	2.5	29+20 症例	
動脈血液ガス分析関連	11.5	—	10 症例	1.5	13+10 症例	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	9	1	5 症例	1	11+5 症例	
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	10.5	2	5 症例	1.5	14+5 症例	

③外科系基本領域 ※研修する特定行為はP.5表1 領域別パッケージ研修③参照

科目名	時間数					金額 (消費税を含む)
	講義	演習	実習	評価	合計	
栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	6	—	5 症例	1	7+5 症例	216,700 円
創傷管理関連	24	—	5 症例	2	26+5 症例	
創部ドレーン管理関連	5	—	5 症例	1	6+5 症例	
動脈血液ガス分析関連	8	—	5 症例	1	9+5 症例	
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	9	1	5 症例	1	11+5 症例	
感染に係る薬剤投与関連	21	6	5 症例	2	29+5 症例	
術後疼痛管理関連	5.5	1.5	5 症例	1	8+5 症例	

2) コース研修

①創傷管理コース ※研修する特定行為はP.5表2 コース研修①参照

科目名	時間数					金額 (消費税を含む)
	講義	演習	実習	評価	合計	
創傷管理関連	31	—	10 症例	3	34+10 症例	134,200 円
創部ドレーン管理関連	5	—	5 症例	1	6+5 症例	
栄養及び水分管理に係る 薬剤投与関連	12.5	2	10 症例	1.5	16+10 症例	

②血糖管理コース ※研修する特定行為はP.5表2 コース研修②参照

科目名	時間数					金額 (消費税を含む)
	講義	演習	実習	評価	合計	
栄養及び水分管理に係る 薬剤投与関連	12.5	2	10 症例	1.5	16+10 症例	79,200 円
血糖コントロールに係る 薬剤投与関連	11	3	5 症例	2	16+5 症例	

3) 区分研修 ※研修する特定行為はP.6表3 区分研修参照

科目名	時間数					金額 (消費税を含む)
	講義	演習	実習	評価	合計	
①呼吸器（気道確保に係るもの）関連	8	—	5 症例	1	9+5 症例	23,100 円
②呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連	20.5	6	20 症例	2.5	29+20 症例	82,500 円
③呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	7	—	5 症例	1	8+5 症例	22,000 円
④胸腔ドレーン管理関連	10.5	1	10 症例	1.5	13+10 症例	38,500 円
⑤腹腔ドレーン管理関連	7	—	5 症例	1	8+5 症例	22,000 円
⑥栄養に係るカテーテル管理（中心静脈カテーテル管理）関連	6	—	5 症例	1	7+5 症例	19,800 円

⑦栄養に係るカテーテル管理（末梢留置型中心静脈用カテーテル管理）関連	7	—	5 症例	1	8+5 症例	22,000 円
⑧創傷管理関連	31	—	10 症例	3	34+10 症例	73,700 円
⑨創部ドレーン管理関連	5	—	5 症例	1	6+5 症例	18,700 円
⑩動脈血液ガス分析関連	11.5	—	10 症例	1.5	13+10 症例	38,500 円
⑪栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	12.5	2	10 症例	1.5	16+10 症例	44,000 円
⑫感染に係る薬剤投与関連	21	6	5 症例	2	29+5 症例	57,200 円
⑬血糖コントロールに係る薬物投与関連	11	3	5 症例	2	16+5 症例	35,200 円
⑭術後疼痛管理関連	5.5	1.5	5 症例	1	8+5 症例	22,000 円
⑮循環動態に係る薬剤投与関連	18	6.5	25 症例	3.5	28+25 症例	89,100 円

7. 研修期間及びスケジュール

(1) 研修期間

令和6年4月～令和7年3月。ただし、在籍期間は、最長2年間とします。

(2) スケジュール(日時等詳細は受講者に別途配布します)

時期	内容等	場所等
4月	開講式、オリエンテーション	看護師特定行為研修センター
4月～9月	共通科目 e-learning 学習、 集合研修	看護師特定行為研修センター 医学部スキルスラボ 他
9月末	共通科目試験	看護師特定行為研修センター
10月～	区分別科目 e-learning 学習	
11月下旬～12月上旬	集合研修 区分別科目試験、OSCE	看護師特定行為研修センター 医学部スキルスラボ 他
12月中旬～2月末	臨地実習（自施設実習）	病棟他、協力施設
3月中旬 3月下旬	修了判定（特定行為研修管理委員会） 修了式	看護師特定行為研修センター

※研修のための宿泊及び交通費等は各自にて実費負担となります。

8. 研修内容等

研修は、共通して学ぶ「共通科目」と特定行為区分ごとに学ぶ「区分別科目」に分かれており、講義、演習または実習によって以下のとおり行われます。

(1) 共通科目

- ・e-ラーニングを中心とした講義を受講し、確認テストに合格すること
 - ・演習は関連する e-ラーニング講義を履修したのち実施し、指導者の観察評価により合格基準を満たすこと
 - ・実習は関連する講義並びに演習を履修したのち実施し、指導者の観察評価により合格基準を満たすこと
- ※科目履修後、科目修了試験に合格することが必要です。

(2) 区分別科目（領域別パッケージ研修、コース研修含む）

- ・e-ラーニングを中心とした講義を受講し、確認テストに合格すること
- ※科目履修後、科目修了試験に合格することが必要です。
- ・演習は関連する e-ラーニング講義を履修したのち実施し、指導者の観察評価により合格基準を満たすこと
 - ・実習は関連する講義並びに演習を履修したのち実施し、指導者の観察評価により合格基準を満たすこと
- ※OSCE のある科目に関しては、患者に対する実技実習の前に OSCE に合格することが必要です。

9. 受講モデル

研修の学修進度表を参照ください。

10. 修了要件

本研修を修了するためには、次の条件を満たす必要があります。

- (1) 共通科目を全て履修し、筆記試験に合格していること
- (2) 共通科目修了後、選択した区分別科目（領域別パッケージ研修、コース研修、区分研修）を履修していること
- (3) 区分別科目（領域別パッケージ研修、コース研修、区分研修）実習中に、当該区分別行為に係る事例を5事例以上経験し、研修責任者の修了評価を得ていること
- (4) 区分別科目（領域別パッケージ研修、コース研修、区分研修）においては、筆記試験、実習中の観察評価、実技試験等に合格していること

※なお、本研修修了者には、保健師助産師看護師法第 37 条の 2 第 2 項 第 1 号に規定する特定行為及び同項第 4 号に規定する特定行為研修に関する省令に基づき、修了した特定行為区分ごとの修了証を交付し、研修修了者の名簿を厚生労働省に提出します。

II 応募方法

1. 出願手続き

徳島大学病院ホームページ看護師特定行為研修センターの「令和6年度 看護師特定行為研修 募集について」から必要書類をダウンロードください。

URL : <https://tokushima-hosp-antc.jp/>

(1) 出願期間

令和5年12月11日(月)～令和5年12月22日(金) (17時必着)

(2) 出願提出書類

- 1) 看護師特定行為研修志願書 (様式1)
- 2) 履歴書 (様式2)
- 3) 志願理由書 (様式3)
- 4) 推薦書 (様式4)
- 5) 看護師免許証 (A4サイズにコピーして提出してください)
- 6) 受講票返送封筒 ※長形3号封筒に受講票返送先の郵便番号、住所、氏名を明記のうえ、基本送料+簡易書留料金分の切手を貼付

なお、本院又は他機関で既に修了した看護師特定行為研修の共通科目及び区分別科目について、履修免除を受けようとする場合は次のとおり提出ください。

上記1)-6)に加えて

- 7) 既修得科目履修免除申請書(様式5) ※特定行為研修修了証及び修了した研修内容等を添付

(3) 出願先

〒770-8503 徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1

徳島大学病院 総務課専門研修係 Tel : 088-633-9976

※必ず封筒の表に「特定行為研修受講申請書在中」と明記のうえ、「簡易書留」で送付又は、直接持参ください。

2. 受講審査料

11,000円 (消費税を含む) ※出願期日中に、必ず振り込んでください

振込先 銀行名：阿波銀行 支店：本店営業部 種別：普通預金 口座番号：1282852 口座名義：コクリツタ イカクホジントクシマダ イカクチョウ カリムラヤスピ 国立大学法人徳島大学長 河村保彦

※提出された出願書類、受講審査料は返却しません。

3. 選考方法

- (1) 書類選考
- (2) 面接

※面接日は1月初旬を予定しております。詳細は別途お知らせします。

4. 合否並びに受講手続き等

- (1) 合否の通知は、本人宛簡易書留にて郵送します。
※電話、FAX、メールのお問合せには対応しません
- (2) 受講のための必要な書類及び受講料の振り込みについては、合格通知書と一緒に送付します。

受講料振込先	銀行名：阿波銀行 支 店：本店営業部 種 別：普通預金 口座番号：1294180 口座名義：コクリツ ^テ イ ^ク ホウジ ^{ントクシマ^ダイ^クチヨウ} カムラヤシホ 国立大学法人徳島大学長 河村保彦
---------------	--

※研修期間中において任意保険へ加入を必須とします。

[個人情報取り扱いについて]

徳島大学病院では「個人情報の保護に関する法律」を遵守し、個人情報の適正な取り扱いに努め、安全管理のために必要な措置を講じております。出願および受講手続きにあたって提供いただいた個人情報は、選考試験の実施、合格発表、受講手続き、履修関係等の必要な業務において使用させていただきます。なお、当院が取得した個人情報は、法律で定められた適正な手続により開示を求められた場合以外に、本人の承諾なしに第三者へ開示・提供することはありません。

募集に関するお問い合わせ

徳島大学病院 総務課 専門研修係

〒770-8503

徳島県徳島市蔵本町2丁目50-1

Tel : 088-633-9976

E-Mail : bsenkenk@tokushima-u.ac.jp